



撮影=齊田 勤  
photo by Saida Tsutomu  
東京・神楽坂の東京理科大学神楽坂キャンパスにて

# FSP研究会

(フューチャー・スキルズ・プロジェクト研究会)



前列左から、**櫻井澄人**(野村証券人材開発部長)、**横井勝彦**(明治大学商学部教授)、**安西祐一郎**(日本学術振興会理事長)、**白石典義**(立教大学統括副総長)、**深澤晶久**(実践女子大学大学教育研究センター特任教授)  
後列左から、**山本誠**(東京理科大学副学長)、**東山高久**(ベネッセiキャリア企画開発部)、**田中正郎**(青山学院大学副学長)、**横山政司**(オリエントランド人事部人事部長)、**荒木勉**(上智大学経済学部教授)、**渡部卓明**(資生堂ジャパンブランド戦略部トレードマーケティング室グループリーダー)、**宮之原隆**(日本オラクル人事部シニアディレクター)、**松本隆**(ベネッセiキャリア企画開発部部長)

**2**010年7月、名前も顔も知らない同士が初めて会った。産業界と大学で何かできないか、そうは言っても…白々とした沈黙が続く。次は、企業は大学、大学は企業に不満のぶつけ合い。「議論より実践」と気を取り直し、「フューチャー・スキルズ・プロジェクト(FSP)研究会」と銘打って、大学1年生向けの産学協同授業を始めた。

それから6年余、築き上げた信頼とチームワーク、その象徴がこの写真。立派な仕事も家庭も持ちながら産学連携教育のボランティアに踏ん張る、一人前の大人たちの笑顔がまぶしい。スカイプ参加、出産して育児中、その他、写真に写っていない仲間もいる。転勤などで抜けても仲間のまま。

同会の輪は年々広がり、15年に社団法人化して会員制になった。関東、中部、北陸、関西、九州圏、大企業から地場産業、メーカー、小売り、IT、運輸、金融、証券、保険、コンサル、その他多種多様、中央官庁、地方自治体、B to CもB to Bもある。大規模総合大学から地域の小さな大学、理工系単科大、女子大、私立あり国立あり、100近く

の企業と約20の大学が、単位取得可能な正規の授業をしている。既に6000人近くの学生が受講、1年生のときに受講した1期生は就職した。シンポジウムの参加者も毎年600名を超えた。「新入生に企業が教えるなんて大学ではない!」という教授会、「1年生の授業に関わるなんて人件費のムダ!」という企業風土を乗り越え、ボランティアでここまで来た。

1学期に2つの企業の授業があるの、2つ目の企業るときにまたチャレンジできる。キーワードは「主体性」。学期が終わると、受講した1年生が口を揃えて「社会で活躍したければ自分が勉強しないと!」。全国の高校大学に広がる「アクティブ・ラーニング」の先例にもなった。さらに質を高めるため、16年度は実践者による意見交換会を開く予定だ。活動内容については「FSP研究会」を検索いただければ幸いである。

先の見えない世の中で、社会と教育の接続こそが未来を創る、その実践を共有できるゆかいな仲間たちとの出会いは一生の宝だ。  
(安西記)